

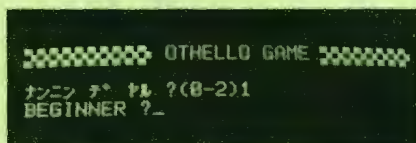
The Othello!

…PART II

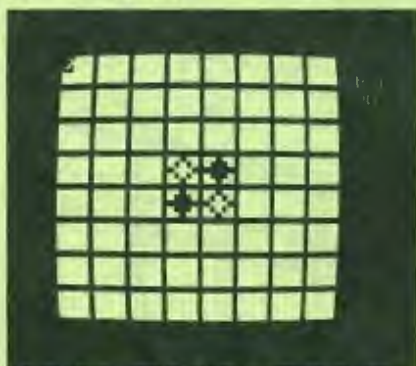
乾謙一

「オセロ」をプログラミングするには様々なアルゴリズムが考えられますが、ここに紹介するナカモズTiny Basic版の「オセロ」は、後述の“必勝手順探索プログラム”に木探索を用いている点で、一味違った趣きを持っています。

本誌には度々御登場頂いている乾謙一氏の手によるものですが、今後拡張されることも十分期待されます。あんまり急いで読むと消化不良を起こす恐れがありますので、じっくりと味わってみてください。(編集部)



(ゲーム開始直後のメッセージ)



(初期状態；人間(黒)が先手の場合)

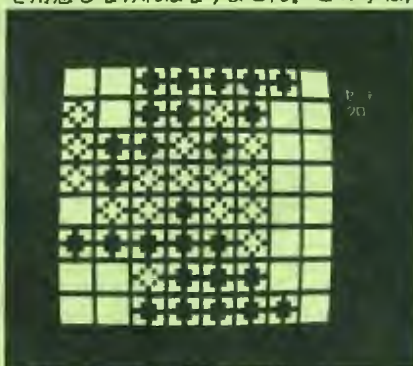
ナカモズTiny Basicのアプリケーションとして、オセロを製作しましたので紹介させていただきます。

このオセロを製作するにあたって、「コンピュータが1手に要する時間は、何秒を限度とするか?」という事を考えまし

た。これが極端に長いと、いくらコンピュータが強くても対戦者が興味を失ってしまいます。これは意見の分かれるところですが、5秒、あるいは10秒というところでしょう。ちなみに、8月号のマイクロオセロは30秒(クロック1MHz)、Apple IIのアプリケーションも試してみましたが、マイクロオセロと同じ位で約45秒でした。

アルゴリズム

次にアルゴリズムですが、先を読まなければ人間の相手にはなりませんから、取り敢えず1手先を読むことにします。オセロでは、1手先といっても石を置けば盤が変化しますから、もう1つ別の盤を用意しなければなりません。この事は、



(途中経過；人間(黒)が優勢)

当初かなり困難であろうと予測していたのですが、オセロでは、石の置ける位置が限られていますから(せいぜい20カ所位)、割合に簡単な処理でできることがわかりました。

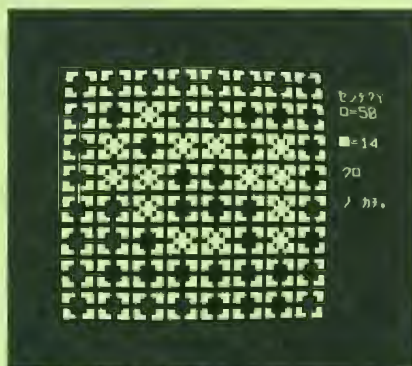
しかし、いくら先を読むといっても最

後まで読むわけではありませんから、ゲーム途中で有利不利を判断する評価関数を作らなければなりません。これには、まず機械語サブルーチン(ラベル“TABLE”)で、全ての位置についてそこに石を置いた時に裏返せる相手の石の数を調べて、メモリ内にテーブルを作ります。

次に、オセロではコーナーが有利である等、位置によって有利不利があります

88	16	38	33	33	38	16	88
16	0	18	18	18	18	0	16
38	18	28	23	23	28	18	38
33	18	23	/	/	23	18	33
33	18	23	/	/	23	18	33
38	18	28	23	23	28	18	38
16	0	18	18	18	18	0	16
88	16	38	33	33	38	16	88

表2 ペナルティ・データ・テーブル



(人間(黒)の勝利!!)

から、このテーブルにペナルティを加えます。これは、機械語“PENAL”によって行なわれます。コンピュータは、自分のメモリ内に1手先の盤を実現させて、

(今回の自分の石の点数)



— (次の相手の点数の最大値) を評価値として最良手を選びます。ただし、相手にパスさせる様な手にはプラス5点としています。

以上の手は主に中盤に有効ですから、序盤ではテーブルを逆に使って、相手に石を多く取らせませす。終盤ではペナルティを加えずに、1手先で少しでも自分の石が多くなる様に打ちます。

コンピューターーチンについて、もう少し詳しく説明してみましょう。

- 910~ 990 主に序盤で用いる所です。
- 940~ 950 石の数を無視して、ペナルティのみを用いています。
- 960~ 970 むしろ石の数の少ないところに打ちます。
- どちらを使うかは乱数で決めています。
- 1000~1090 中盤以降で用いる所です。

自分の石が打てる座標と、その点数を一担スタックにセーブした後、機械語サブルーチン“TRANS”で盤1の内容を盤2に転送します。次にスタックから1個取り出して盤2に石を置き、100~170のサブルーチンで石を裏返してから、相手の石の点数を計算して評価値を出します。これを繰り返して評価値最大の所に打ちます。表1に変数と配列(1バイト単位)

マイクロオセロとの比較

- 1) 表示はグラフィックで、座標を考える必要がない。
 - 2) 人間対人間の場場合でも、パスを自動的に判断する。
 - 3) パターンは、毎回変化する。
 - 4) コンピュータに、学習させる事ができる。
- コンピュータの強さに関して言えば、
- 5) 必要ならばコーナーの隣でも打つが、コーナーを取られそうになれば積極的に守る。
 - 6) 相手にパスさせる様に打つ。

プログラムの説明

- 100~ 170 サブルーチン REVERSE
 - 900~1090 コンピューターーチン
 - 3000~3040 イニシャライズ
 - 4000~4380 メインプログラム
 - 4500~4540 サブルーチン DISPLAY
 - 5000~5080 データ
- マシン語サブルーチン(\$2000~\$20D0)
- \$2000 TRANS
 - \$20D0 PENAL
 - \$203A TABLE

REVERSE			
変数		配列	
@	データ アドレス	@	ペナルティ・データ・テーブル
A	石の種類	}	
B	石の数	}	
C	人数	@+63	
D	黒の石の数	Z	盤1
E	白の石の数		
F	} X, Yの一時記憶	}	評価値テーブル
G		座標の一時記憶	
H	初心者のフラグ	Z+64	
K	} ループカウンタ他		
L	評価値の最大値	Z+127	評価値テーブル
M	スタック ポインター		
N	POKEするアドレスの一時記憶	Z+128	盤2
O	Z+128		
P	パスの回数	Q	盤2
Q	ユーザー関数の出力		
R	V-RAM アドレス	Q+63	座標と評価値のスタック (下図参照)
V	V-RAM上アドレスの一時記憶		
W	} 座標	Z+192	
X			座標
Y	配列の先頭番号 @+64	}	
Z			

座標	評価値	座標	評価値				
----	-----	----	-----	--	--	--	--

#(Z+192)

↑
STACK POINTER 変数0
⇒PUSH
PULL ←

表1 変数と配列

を示します。

プログラムを タイピングする前に…

システムに合わせて変更が必要となりますので記しておきます。

- ① グラフィックの出ない場合
適当なキャラクターと入れ換える。
- ② 配列の番地、V-RAMの番地
3010 @=\$1F00を変更する。
(後に300バイト程使用します。)
3020 V=\$CE00を変更する。
- ③ データバスが正論理の場合
4140 …: #W=\$FF->">"
を単に #W=">"とする。
- ④ H68/TRのコンソール使用の場合
4160, 4170, 4180の"R", "D"
, \$Dを適当なキーコードに変更する。
- ⑤ 機械語をリロケートする場合
ユーザー関数の飛び先を変更する。

…以上の変更で完全に動作します。

遊び方

さっそくプログラムを走らせてみましょう。まず、何人でやるか?と聞いてきます。さらに、BEGINNER?と聞いてきます。ここでYを入力すれば、コンピュータは弱くなります。1人でプレイする時、人間は黒で、コンピュータは白です。先手後手は自由に選べます。

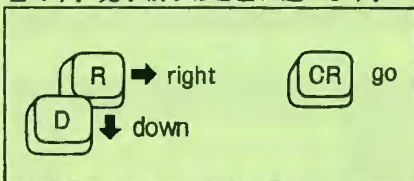


図1 キーボードの使い方

人間の手番では、画面の左上に点滅する>印が現れます。ここでRを押すと、マークは右の方へ動いてゆきます。Dを押すと下に動きます。(図1参照)最後は、チョンチョンとやれば1マスずつ動きます。もし行き過ぎたら、そのまま押し続けるとまた反対側に戻ります。H68/TRのコンソールを使用する時は、上下左右に動かせる様にすることが良いでしょう。

(CR)を押せば、マークの位置に石がセットされます。もちろん、石をはさなければ、(CR)キーは反応しません。コンピュータが1手に要する時間は、

中盤でも5~6秒以内です。序盤では、もっと速くて1秒位です。強さの方は言葉で説明できませんが、かなり強いとだけ申し上げておきましょう。(人間の相手としては、適当?)

学習するコンピュータ

このプログラムでは、ペナルティデータテーブル(表2)をDATA文として、Basic側に持っています。これはRUNすると、メモリーの@~@+63番地に書き込まれます。このテーブルの値によって、コンピュータの手は大きく変化します。特に、コーナーの隣は±1位でも効いてきます。

ですから、あなた自身で試合をやってみてデータの値を改良してみてください。(注意:下手な人が相手をする時、段々

下手になる?)

また、データ文を何組も用意しておいてRESTORE文で切り換えても、試合の状況に応じて書き換えても効果的でしょう。

最後に……

とにかく、これだけのプログラムが3Kバイト以下にまとまったのも、N.T.B.のおかげです。私自身、「オセロに強い」というわけではありませんから、このプログラムを走らせてみて、「ここはこうした方が良い。」といったアドバイスをしていただければ幸いです。最後に、このプログラムの製作に際して協力して下さった、南憲明さん、山西一啓さんと、N.T.B.を提供して下さいました山下春夫さんに感謝いたします。

…PART-III

心勝手順探索

プログラム!

ここに紹介するプログラムは少し毛色の変わったもので、マイコンに完全なプレイをさせることを目的として作られています。

もちろん実行速度のことを考えれば、このプログラムは終盤でしか使用できませんから、「詰めオセロ」を解くプログラムと考えていただいても結構です。これは、12月号の「騎士巡歴問題」を見て思いついたのですが、普通、この種の思考プログラムに使われる「minimax法」とは少し異なっています。

必勝手順探索のアルゴリズム

このプログラムの特徴は、あらかじめ何手読むのかを決めておくのではなく、このプログラムに飛んだ時点から最後までを読むというところにあります。図2

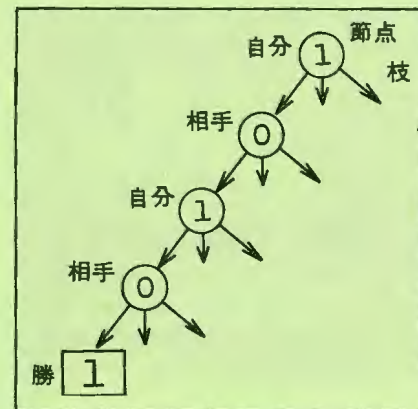


図2 探索のモデル

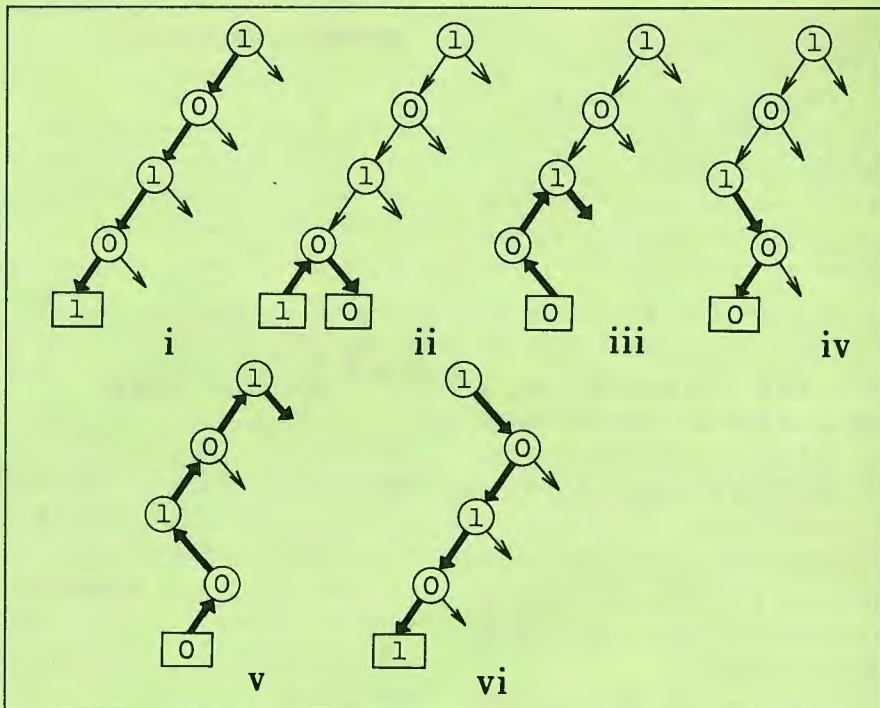
を見て下さい。自分の手番から始めて4手目に勝負がつく場合です。

実際の試合では、パスのことや、途中で勝負がつく場合のことも考慮しなければなりません。さて、そのアルゴリズムは……

- 自分の石、相手の石を交互に置きながら勝負がつくまで石を埋める。その際、自分の手番の節点には1、相手の手番の節点には0のマークを付けておく。
- 勝負が自分の勝ちなら1、負けなら0をback up値として、一番近い節点まで後退する。
- ここで、もしback up値と節点マークが一致したら、さらに後退する。一致しなければ、ステップ1に戻って他の枝を調べる。
- すべての枝を調べたら、一致しなくても一番近い節点まで後退して、ステップ3に戻って繰り返す。
- 以上の操作を終了して、back up値が1なら必勝手順が存在する。

図3①～⑥にその例を示します。

- まず、勝負がつくまで前進してback up値1を得る。
- 後退する。一致しないので前進して0を得る。
- 後退する。一致するのでもう1歩後退する。一致しないので前進する。
- ここでback up値0を得る。
- 一致するので後退する。一致しない



が枝がないので後退、さらに後退する。
 ⑥ 結局、この枝には必勝法はなかった
 ので、別の枝を探索する。

てみましょう。
 その前に、Basicで書かれていたサブルーチン REVERSE をマシン語に直しましたので、そのソースリストを図4に示しておきます。アセンブラを御使いの方は、“Tinyオセロ”のプログラムの後に接続してアSEMBルしていただければO.K.

プログラムの実際

ここでは、私の“Tinyオセロ”に接続した場合のプログラムを例にとって説明し

ADDRESS	LABEL	MNEMONIC	A.M.	OPERAND	COMMENTS	ADDRESS	LABEL	MNEMONIC	A.M.	OPERAND	COMMENTS
20F6	REVERS	LDAB	#	\$FB	ベクトル DY イニシャライズ			INCB			
		STAB		DY				CMPA		VA	
	RE1	LDAB	#	\$FF	ベクトル DX イニシャライズ			BNE		RE3	相手の石がある。
		STAB		DX			RE4	LDAA		WX	
								SUBA		DX	
	RE2	PSHA			Aには座標が入っている。			STAA		WX	
		ANDA	#	\$7	(X, Y)に分解 する。			LDAA		WY	
		STAA		WX				SUBA		DY	
		PULA						STAA		WY	
		PSHA						ADDA		WX	
		ANDA	#	\$38				LDX		DATA	
		STAA		WY			JSR		SUM		
		CLRB			カウンタークリア			LDAA		VA	
	RE3	LDAA		DX	WX←WX+DX			STAA		192,X	
		ADDA		WX				DECB			
		STAA		WX				BNE		RE4	
		BITA	#	\$8	X方向はみ出し。			PULA			
		BNE		RE5				LDAB		DX	
		LDAA		DY	WY←WY+DY			INCB			ベクトルDXを インクリメント
		ADDA		WY				STAB		DX	
		STAA		WY				CMPB	#	\$2	
		BITA	#	\$40	Y方向はみ出し。			BNE		RE2	
		BNE		RE5				LDAB		DY	
		ADDA		WX	盤2を調べる。			ADDB	#	\$8	ベクトルDYを インクリメント
		LDX		DATA				STAB		DY	
		JSR		SUM				CMPB	#	\$10	
		LDAA		192,X				BNE		RE1	
		BEQ		RE5	石がない。			RTS			

図4 サブルーチン REVERSE ソースリスト

です。オブジェクトリストは、\$ 2000～\$ 215Cにアセンブルしてあります。

この改造とBasic側の若干の改良によって、これまで約5秒程かかっていた“1手先読み”の思考時間が、約1秒になりました。(この1手先読みは、自分の手番から数えれば3手先読みだという説もある。)

さて、オセロでは、置いた石を取り除いただけでは元の盤に戻ってくれませんから、各節点での盤を全部残しておかなければなりません。それではメモリを食い過ぎるので、前進する際に毎回最初から盤を作り直す様になりました。(サブルーチンSETUP)

各節点での可能な手は、スタックに格納されています。スタックは、配列の最後に256バイトを使用して図5の様に構成されています。

最大14バイトまでのスタックを16個持っていますから、一応16手までは安全に読めると思います。ここで、⑧には変数Aの値、つまり、黒の手番なら1、白の手番なら2が書き込まれます。⑨には、

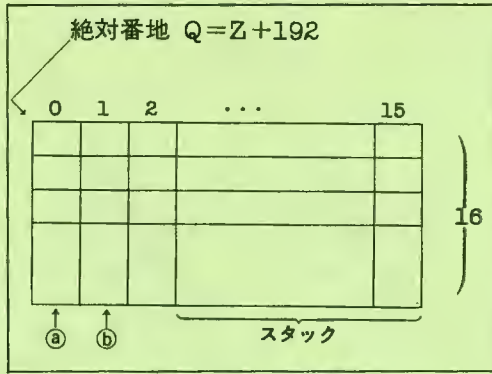


図5 スタックの構成

それ以後のスタックがどこまで有効か、つまりポインターが入ります。⑨に2が入っていれば、そのスタックは空です。

フローチャートを図6に示します。サブルーチンSETUPは、最初機械語で製作していたのですが、メモリ不足のためアセンブルできなくなったのでBasicに変更しました。

このプログラムは、変数Tの値によって制御されています。つまり、T=2の時前進操作を行ない、後退する時はTにback up値を入れておきます。

実行例とその結果

このプログラムで8手読むのに、平均1分位かかります。というのは、このアルゴリズムでは、どの程度調べる枝を省略できるかを運に頼るしかなく、速い時は20秒位ですし、3分かかったという報告もあるのです。

また、このプログラムは必勝手順を見つけるものの、それは最良手順とは限りません。

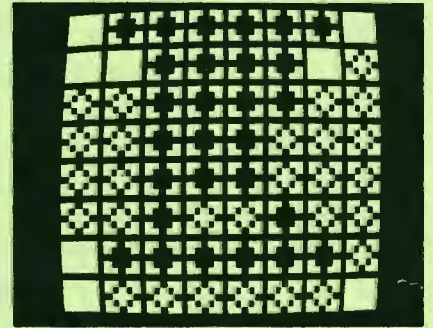


写真 5

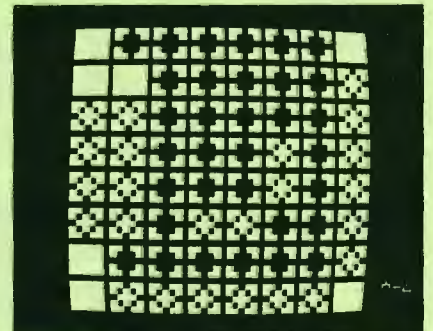


写真 6

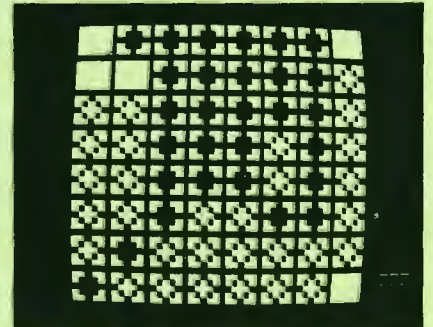


写真 7

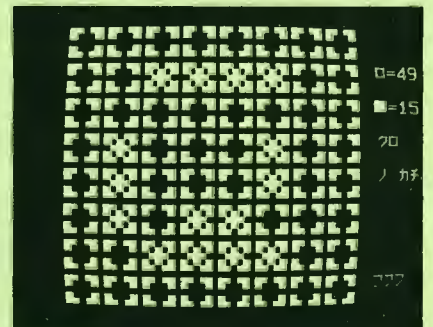


写真 8

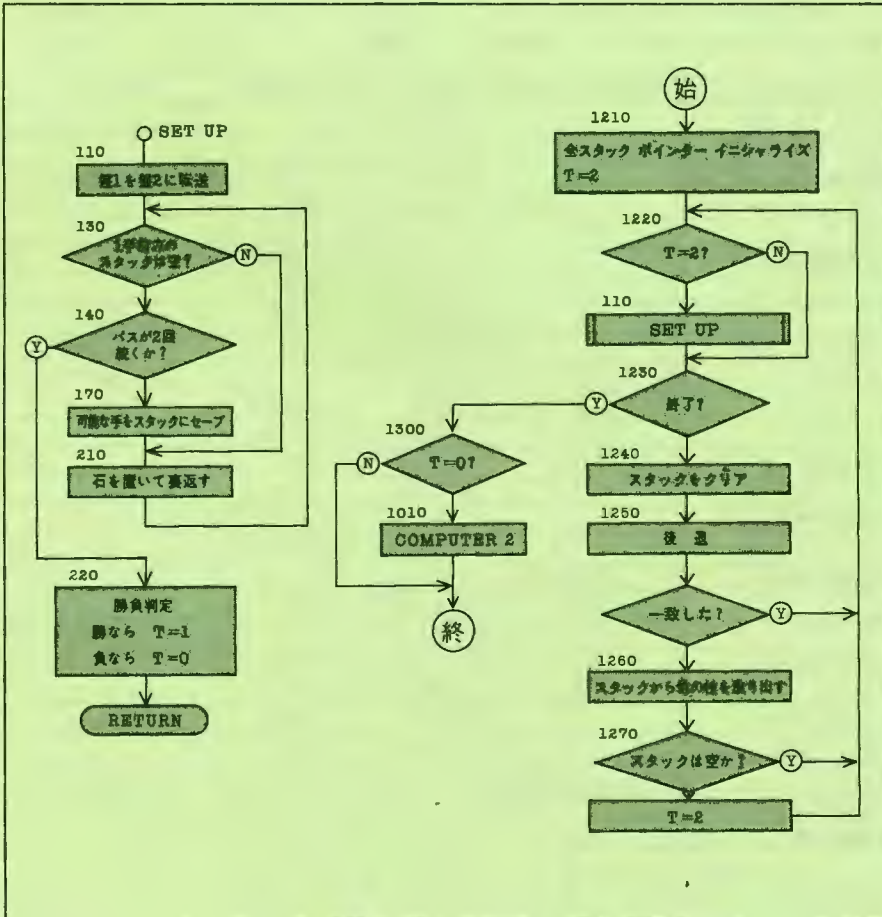


図6 フローチャート

必勝手順が見つからない時は何の情報も得られないので、1手先読みのプログラムに飛ばして相手のミス待ちます。

写真は、コンピュータ同士で試合をさせたところです。写真1は黒の手番です。ここまでは、1手約1秒でスピーディー

に試合を進めてきますが、行番号920によって53手目から黒の8手読みに移ります。

ここですでに黒は必勝手順を見つけてしまうので(写真2)、白が7手読みをして、もう必勝手順は見つかりません。黒

はゆうゆうと試合を進めていきます。(写真3, 4)

もちろん最後は黒が勝ちます。これなら、10手以上の難かしい詰めオセロでも、時間さえかければ解くことができます。是非一度実験してみてください。

LISTING TABLE

Part-I Tiny Othello

```

M.
10 REM*****
11 REM* TINY OTHELLO GAME *
12 REM* U.3.1 *
13 REM* BY KEM'ICHI-INU1 *
14 REM*****
20 G.3010
100 REM REVERSE
110 F=M:G=Y:F,L=-1T01:F,M=-1T01
120 IF(L=0)<N=0)=2 M,M
130 X=F:Y=G:DO:X=N+1:Y=Y+M:IF(X)7)<X(0)<Y)7)<
Y(0) U.1:G.170
140 P=0+X+0*Y
150 IFP=0 U.1:G.170
160 U.0P=0:DO:X=N-L:Y=Y-M:(0+X+0*Y)=N:U.(X=F)<
Y=G)=2
170 M,N,L,R.
900 REM COMPUTER
910 IFU.(#2030,1)=0 R=R+1:G.4300
920 IF(B)14)<K=0)=2T.1020
930 IF R.(2)=0 T.960
940 F.L=64T0127:IFB(Z+L))0 B(Z+L)=1
950 N.L:G.900
960 F.L=64T0127:IFB(Z+L))0 B(Z+L)=20-B(Z+L)
970 N.L
980 U.U.(#2000):L=63:DO:L=L+1:U.(KZ+L)=U
990 Y=(L-64)/B:K=X+MOD:G.4190
1000 REM FINAL STAGE
1020 IFB(55 U.U.(#2000)
1030 O=192:F.L=0T063
1040 IFB(Z+L+64))0 B(Z+0)=L:B(Z+0+1)=B(Z+L+64):D
=0+2
1050 N.L:IFB=194 Y=B(Z+192)/B:X=MOD:G.4190
1060 N=99:DO:O=O-2:U.U.(#2000):Y=B(Z+0)/B:X=MOD
1070 GOS.110:A=3-A:U=U.(#2030,2):IFB(55 U.U.(#20
00)
1075 IFU=0 U=-5
1080 A=3-A:IFB(B(Z+0+1))=U N=B(Z+0):M=B(Z+0+1)=U
1090 U.O=192:Y=N/B:X=NOD:G.4190
3000 REM MISJAL
3010 O=#1E00
3020 U=#CE00
3030 Z=#+54:Q=Z+120
3040 F.L=0 T00+63:0L=RE.+R.(2):N.L
4000 REM NATH PROG.
4010 P.C.5:"5555555555 OTHELLO GAME 55555555"
4020 R=0
4030 F.L=0T063:B(Z+L)=0:N.L
4035 B(Z+27)=2:K(Z+20)=1:B(Z+35)=1:B(Z+36)=2
4040 P."アツク アツク ?(0-2)"":C=G.-48:IFC)2T.4040
4045 P.:IFC(2 P."BEGINNER ?":K=C.=Y"
4050 C.:CU.(0,0):F.L=0T07
4050 P."
4070 P."
4080 N.L:A=1:K=4:Y=3:GOS.4500:N=3:Y=4:GOS.4500
4090 A=2:X=3:Y=3:GOS.4500:X=4:Y=4:GOS.4500:B=0
4095 IFC=1 CU.(25,1):P."アツク?":A=C.G.=Y")+1
4100 A=3-A
4110 IFU.(#2030,1)=0 R=R+1:G.4300
4120 R=0:B=0+1:IFC(0)<X(C=1)<A=2) T.910
4130 X=0:Y=0:CU.(25,2):P.C.(A=1)*"A+(A=2)*"":
A":
4140 DO:U=0+3*X+6+4*Y:L=0:M=0FF=")
4150 F.M=(N=100)>150T0160:N.N
4155 0U=L:N=KEY
4160 IFM="R" X=X+1:IFX)7 X=0
4170 IFM="D" Y=Y+1:IFY)7 Y=0
4180 U.(N=0)>(B(Z+64+X+0*Y))0)=2
4190 B(Z+X+0*Y)=A:GOS.4500:F=X:G=Y:F.L=-1T01:F.M
=-1T01

```

```

4200 IFOR(L,M)=0T.4250
4210 X=F:Y=G:DO:X=N+1:Y=Y+M:IF(X)7)<X(0)<Y)7)<
(Y(0) U.1:G.4260
4220 P=Z+X+0*Y
4230 IFB=0P U.1:G.4260
4240 U.A=0P:DO:X=N-L:Y=Y-M:IF(X=F)<Y=G) U.1:G.4
260
4250 B(Z+X+0*Y)=A:GOS.4500:U.B
4260 N.N:N.L
4270 D=0:E=0:F.L=0T063:M=B(Z+L):D=0+(N=1)
4280 E=E+(M=2):N.L
4290 IF(D=0)<E=0)<D+E=64)T.4320
4300 IFR)17.4320
4310 G.4100
4320 CU.(25,2):P."":D:
4330 CU.(25,4):P."":E:
4335 IFD=E T.4360
4340 CU.(25,6):P.C.(D)E)*"A+(D+E)*"":D":
4350 CU.(25,8):P."":G.4370
4360 CU.(25,6):P."":G.4370
4370 IFB.=Y"":G.4010
4380 END
4390 P.C.610,7:IFM=2T.4530
4410 CU.(30X,2*Y): P."":
4420 CU.(30X,2*Y+1):P."":R.
4430 CU.(30X,2*Y): P."":
4440 CU.(30X,2*Y+1):P."":R.
5000 REM DATA
5010 *00,16,38,33,33,38,16,00
5020 *16,0,18,18,18,18,0,16
5030 *30,18,28,23,23,20,18,30
5040 *33,18,23,0,23,18,33
5050 *33,18,23,0,23,18,33
5060 *30,18,28,23,23,20,18,30
5070 *16,0,18,18,18,18,0,16
5080 *00,16,38,33,33,38,16,00
READY
)
70.5 RANG0 R1.0
0001 *
0002 *
0003 *
0004 *****
0005 *SUBROUTINE FOR
0006 * TINY OTHERD GAME
0007 *PROGRAMED BY KEMV
0008 *1978/11/26
0009 *****
0010 0003 VA EQU 03
0011 0000 DATA EQU 00
0012 *
0013 *
0014 003C ORG 03C
0015 003C 0001 CDUM RMB 1
0016 003D 0001 MAX RMB 1
0017 003E 0002 IKS RMB 2
0018 0040 0002 WK1 RMB 2
0019 0042 0002 WK2 RMB 2
0020 0044 0001 DX RMB 1
0021 0045 0001 DY RMB 1
0022 0046 0001 VX RMB 1
0023 0047 0001 VY RMB 1
0024 *
0025 2000 ORG 02000
0026 *
0027 ***** TRANS *****
0028 *
0029 2000 DE 00 TRANS LDX DATA

```

```

0030 2002 06 40 LDR A 064
0031 2004 E6 40 TR1 LDR B 64,X
0032 2006 E7 C0 STA B 192,X
0033 2008 00 INK
0034 2009 40 DEC A
0035 200A 26 F0 BNE TR1
0036 200C 39 RTS
0037 *
0038 **** PENAL ****
0039 *
0040 200D DE 00 PENAL LDX DATA
0041 200F 06 40 LDR A 064
0042 2011 7F 003D CLR MAX
0043 2014 E6 00 PE2 LDR B 120,X
0044 2016 27 00. BEO PE1
0045 2018 E0 00 ADD B 0,X
0046 201A E7 00 STA B 120,X
0047 201C D1 30 CMP B MAX
0048 201E 23 00. BLS PE1
0049 2020 D7 3D STA B MAX
0050 2022 00 PE1 INK
0051 2024 0A 2017 00
0052 2026 4E 0052 2024 2E BNE PE2
0053 2026 5F CLR B
0054 2027 96 3D LDR A MAX
0055 2029 39 RTS
0056 *
0057 **** SUN ****
0058 *
0059 202A 36 SUM PSH A
0060 202B DF 3E STX IKS
0061 202D 9B 3F ADD A IKS+1
0062 202F 24 03 BCC +5
0063 2031 7C 003E INC IKS
0064 2034 9F 3F STA A IKS+1
0065 2036 DE 3E LDX IKS
0066 2038 32 LDR A
0067 2039 39 RTS
0068 *
0069 *
0070 **** TABLE ****
0071 *
0072 203A 0C 0001 TABLE CPX 01
0073 203D 26 00. BNE TABLE2
0074 203F 06 40 LDR A 064
0075 2041 20 00. BRA TA1
0076 2043 06 C0 TABLE2 LDR A 0192
203E 04
0077 2045 DE 00 TR1 LDX DATA
2042 02
0078 2047 8D E1 BSR SUM
0079 2049 DF 40 STX WK1
0080 204B DE 00 LDR DATA
0081 204D 06 00 LDX A 0120
0082 204F 8D D9 BSR SUM
0083 2051 DF 42 STX WK2
0084 2053 7F 003D CLR MAX
0085 2056 4F CLR A
0086 *
0087 2057 DE 40 TA2 LDX WK1
0088 2059 00 CF BSR SUM
0089 205B 6D 00 TST X
0090 205D 27 00. BNE TR3
0091 205F 5F CLR B
0092 2060 20 00. BRA TR4
0093 2062 7F 003C TA3 CLR CDUM
205E 03
0094 2065 C6 FB LDR B 03FB
0095 2067 D7 45 STA B 0V

```

